

関東ふれあいの道を歩く（東京）⑤鍾乳洞と滝のみち

2020年（令和2）5月25日 池内淑皓

2020年3月に入ってコロナウイルスが蔓延して大変。3月6日（金）まだ規制がかかる前に山に向けて都会を脱出する。電車は6時台を利用して人込みを避ける。

今回ふれあいの道コースは、鍾乳洞と三つの滝をめぐる素敵なコースであるが、悪路・難路が待ち構えているというスリルもある楽しいコースだ。



(首都圏自然歩道連絡協議会)

奥多摩地区 ④歴史のみち、⑤鍾乳洞と滝のみち、⑥杉の木陰みち概念図



「⑤鍾乳洞と滝のみち」今日歩く行程図

スタートは松生山の滝入口バス停、ゴールは大岳鍾乳洞入口バス停



今回の鉄道最寄り駅は JR 五日市線、武蔵五日市駅 8:34 着



バスは駅前から「藤倉」行き乗車で、前回ゴールの弘沢の滝入口がスタート



北秋川橋を渡り、案内板に従って北に向かう



榎原小学校のバス停前を通過



次に「とうげん橋」バス停を通過、遠景に大岳山（1296m）が良く見える



千足バス停手前の榎原神社脇の路地を道標に従って右折北に向かう。
この地域一帯に熊が出るらしい。最近では熊が冬眠しないので注意が肝心



舗装された林道を過ぎるとすぐ谷沿いの道に変わり、つづら岩方面と天狗滝方面との道を分ける



谷沿いに天狗の滝に向かう



「小天狗の滝」10分程谷を遡行すると、10m程の小さな滝に出会う



「天狗滝」落差 38m、子天狗の上部に架かる滝。石灰岩の一枚岩に滑るように滝が流れる。この滝は、本宿の町からでも見えると言う



綾滝に向かってゆくと、思わぬところに里程標があった。[北秋川橋 2.5 k m ⇄ 7.0 k m 養沢]



さらに沢の道を詰めてゆくと



「綾滝」落差 21m、石灰岩のつるつる岩を滑るように流れる
将に綾の織物の様に落ちる様を表現している素敵な滝が、忽然と現れた。



「つづら岩」綾滝から 600m程の急登で足場の悪い尾根をよじ登ると、ロッククライミングが出来る巨大な岩場に出る



つづら岩の直下で馬頭刈尾根に合す。この道は馬頭刈山を経て、軍道バス停に出るハイキングコースとなっている



ここからの稜線も悪路で、危険はないが道標には「道悪し」と表示あり



「富士見台」山の名前は[大怒田山 (1054m)]であるが、富士山が良く見えることから、富士見台と名がついている。東屋もあり、昼食に最適な場所となっている。



午後は一転快適な高原状の笹尾根の中を、のんびり歩く



笹藪の中に半ば埋もれかかって里程標があった。[養沢 6.0 k m ⇄ 4.5 k m 北秋川]



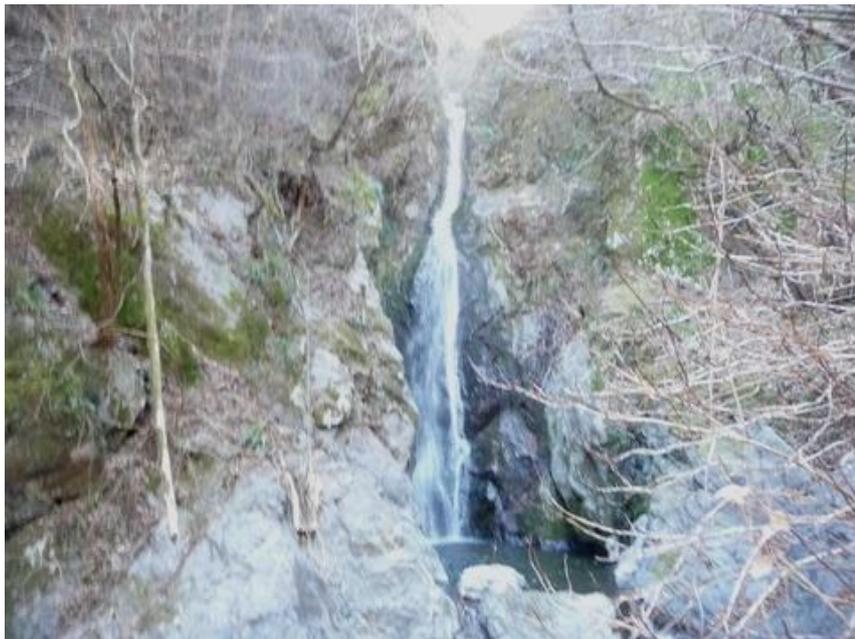
快適な尾根をぶらぶら歩いて 20 分、大岳山と大岳鍾乳洞への道の分岐点に出会う



大岳山の山腹を巻くようになだらかに下る、この部分は特に、関東ふれあいの道の為に開削されたと聞く



大岳沢に出ると、沢に沿って岸をへつるよう歩き、河原沿いの谷道に出る



「大滝」三番目の滝、今まで見て来たようなスケールはない



「大岳鍾乳洞」14：40分に到着、バスは14：45発だから間に合わない、ゆっくり洞内を見学して行こう



昭和36年地元の田中雄嘉造さんが発見、以来一族が守り保護してきた



昭和41年東京都天然記念物に指定される。堂内300m、うみゆりの化石等が観察出来る（入洞料600円）



16時県道に出る、バスは17:15までない



バスが来た時には、日暮れとなった

[参考タイム]武蔵五日市駅 (8:50) →bus→払沢滝バス停 (9:15) →千束登山道 (9:32) →天狗滝 (10:25) →綾滝 (11:03-11:10) →つづら岩 (11:50-12:25 (昼)) →富士見台 (12:40-12:55) →大岳山への分岐 (13:13) →大滝 (14:15) 大岳鍾乳洞 (14:40-15:30) →鍾乳洞入口バス停 (15:55-17:15) →bus→武蔵五日市駅 (17:50)

この項完

関東ふれあいの道を歩く (東京) ⑥杉の木陰みちに続く